

(注:2009年11月16日時点)

「持続可能な地域づくり」WG 趣意書 第1次草案 加筆版
(各グループ未承認)

文責:川北

○8月10日円卓会議の総会で承認された「作業計画」の方針

福祉, 教育, 環境, 子育て支援, 農林水産, 観光など市民生活の多様な分野で, 地域の人材や資源を最大限に活用し, 地域内での経済循環を促すことで, 最適なサービスを供給し得る体制を地域主導で確立できるよう, 多様な主体の協働を進めるために, 協働を促進する基盤や阻害する各分野における要因を分析し, その結果にもとづいて協働を担う主体となる各分野での人材育成を進める。

(検討事項の例)

- 各地域で「持続可能な地域づくり」に向けたシナリオの検討
- 地域資源の活用と循環経済の構築への、多様な主体の協働
- 地域の環境や文化を守り・育む人材育成と課題解決および経験・交流の場づくり
- 国内外の取組事例の収集・分析・共有

(1)総会以降のWG設置に向けた準備の動き

①WG設置に向けた会合

A. 意見交換会 (本WGの運営の主幹事としての情報収集の機会)

・第1回 9月 1日(火)19:00～

・第2回 9月15日(火)08:00～

※参加団体:NPO/NGO、金融、政府(経産省、総務省)

※別途、NPO/NGO による全 WG の動きについての情報共有の機会を3回実施。

B. 準備会合 (各グループに参加を呼びかけて意見交換する機会)

・第1回 9月30日(水)10:00～

※参加団体:NPO/NGO、金融、事業団体、労働団体、消費者団体、政府(経産省、総務省)

オブザーバー:消費者庁

②メール等による情報交換

必要に応じて、メール等で情報交換を行う。

* 10月以降、各セクターで委員メンバーの選定を進め、消費者グループ、金融グループ、NPO/NGOグループからWG参画と委員候補の連絡あり。事業者、労働者、政府については未定。(3月9日 加筆)

(2)本年度の本WGの役割 (上記「作業計画」の「検討事項の例」の検討)、【参考資料】参照)

※当面のゴールの時期を2010年3月と定めて議論を行った。

①国内外の取組事例の収集・分析・共有-その1

・前半に、ゲスト等を招いたオープンの勉強会を開催(4回想定)

内容例)

・地域経済の持続可能性に関する予測と分析

- ・協働による成功事例の要因分析と、協働が進まない地域の課題分析
- ※勉強会の講師は、各セクターから2名ずつご紹介いただくなどバランスを配慮。

②国内外の取組事例の収集・分析・共有-その2

- ・後半に、WG委員により、まとめの協議を開催(4回想定)

内容例)

- ・協働による「地域主導の持続可能な地域経済」シナリオ(行動計画)の立案
- ・緩和すべき規制など、阻害要因への具体的な対策立案

※4月以降に続くなら、11(H23)年度以降の予算への提言や、中期的な方針提示

③行動計画の提案

- ・「持続可能な地域づくり」に向けた協働について、複数のモデル・シナリオの提案

(3) 基本的な運営体制

- ・主査: NPO/NGOグループより選出(1名から2名程度)
- ・幹事: 主幹事はNPO/NGOグループ
- ・メンバー: 各グループより委員を選出。(2名程度)

当面の役割は、各グループの「連絡調整担当」とし、その後、議論の流れに応じて、メンバーの拡大・細分化も予定。

※研究者については、今後の検討。

(4)経費や、予算の考え方など 概算 (スケジュール案にもとづく)

○調査分析に関する経費

- ・ゲスト招聘関連 (2名/回×4回 = 計8名)
- ・旅費 @6万円×8名=48万円
- ・謝金 @3万円?×8名=24万円

○委員に関する経費

- ・専門家委員 (2名) 日当 @3万円?×2名×8回=48万円

○会議に関する経費

※消費者庁指定の業者に依頼。

(4) 検討と「協働戦略案」作成の経緯と、起案当初のスケジュール案

	目標と会議など	関連作業など
9月	(1日「準備会合の準備」会合(第1回)) (15日「準備会合の準備」会合(第2回)) 30日 <u>準備会合</u> ・来春提出の「協働戦略案」イメージの共有 ・今後の進め方の基本方針合意 ・WGの構成※とメンバー案の共有 ※構成:人数、主査、幹事、事務連絡体制 (10月中旬に第1次案を確定する方向)	金融・行政(経産省・総務省)・NPOによる 草案(の叩き台)作成 運営委員会への提出資料作成
10月	<u>運営委員会に、「委員名」「構成」「進め方案」</u> <u>「予算面での要望」提出</u>→委員長ご承認 →総合戦略部会長に提出→部会長ご承認 →<u>WG正式発足</u>	開催スケジュール調整 予算調整！
11月	<u>第1回会議</u>(中旬) ・基本的な「ゴール」と「進め方」の(再)確認 ・2020年・2030年に向けた地域の見通し ・事例研究(1・2名?) →「取り組み上の工夫」「今後の課題」を確認 <u>第2回会議</u>(下旬) ・事例研究(2・3名程度)と簡単な課題・要因整理	
12月	<u>第3回会議</u>(月上旬) ・事例研究(2・3名程度)と簡単な課題・要因整理 <u>第4回会議</u>(中旬) ・事例研究(1・2名程度) ・課題・要因の整理	
1月	<u>第5回会議</u>(中旬) ・モデル・シナリオに盛り込むべき課題の確認 ・成功(しつつある)地域と、そうでない地域の違いの原因・背景の確認	
2月	<u>第6回会議</u>(月上旬) ・モデル・シナリオ案に対する意見交換(1) <u>第7回会議</u>(下旬) ・モデル・シナリオ案に対する意見交換(2)	
3月	<u>第8回会議</u>(中旬?) ・モデル・シナリオ案の確定 予備日(下旬)	

→ 各県・地域での同様の動き(各県・市版の「円卓会議」)を促す

趣意書作成にあたって検討すべき内容(未整理分も含む)

(意見交換・準備会合での意見の反映)

○「意見交換会」にて出された意見(要約)

- ・4月に提示するのは「こんなシナリオがあるのでは」を複数提案
- ・持続可能な地域づくりへ、実現・課題解決するプロセスとして「当事者が協議する円卓」を提案
→ 森・川の管理は昔から当事者が協議を積み重ね、最近では医療・福祉のケース・カンファレンス
- ・成功要因の分析+「このセクターがこう関われば、こんな協働ができれば、もっとよくなる」討議
- ・各セクターが連携・協働できない阻害要因と、その解決策？
- ・状況と課題を可視化する「ものさし」と、状況を動かす(外部)人材
→ 地域「外」人材の役割 = 停滞する構造の破壊 → 企業退職者、ワークキャンプ、インターンシップ
- ・クラスターも、ソーシャル/コミュニティ・ビジネスも、「産学官金」連携
- ・「地域内の経済循環」だけでなく、外との関係も → 守る部分と攻める部分の両立・バランス
- ・地域ファンド、地域再投資、地域型SRI、CB/SBへの融資

○「準備会合」にて出された意見(要約)

- ・基本的な進め方について
→ 「課題と背景」をどこまで掘り下げる・整理するか？
→ 将来見通しにもとづくバックカスティングも大切
→ 各セクター内(特に政府・事業者など)どう調整する？
- ・盛り込むべき内容について
→ 経済以外の部分 → もっと強く位置付けるべき
- ・福祉、子育て支援などが、なぜ(適切に)回っていないのか？
→ 関係(ソーシャル・キャピタル)をどう育むか？
→ 医療・介護・障害者支援の重複領域での課題など
→ 地域密着型金融・再投資: 情報発信が鈍ってきた → 再活性化が重要
→ 「仕事以外の役割」への期待
→ 「日常の課題」という印象
→ (かつてのニュータウン、公営住宅など)都市部内の限界集落についても、取り上げるべき。
- ・運営体制について
→ 委員の非東京の比率を高める
→ ボランティアセクターとして、共同募金会、社会福祉協議会、社会福祉法人の巻き込みも必要か？
→ 地方自治体の参加の有無について → 首長？ 議員？ 職員？
→ 地域での取り組みの実態を見ると、金融では信金・労金、消費者では生協が最前線か？